

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177100286		
法人名	特定非営利活動法人 NPO 社会福祉振興会		
事業所名	グループホームななかまど歌志内館 2号館		
所在地	北海道歌志内市宇中村34-1		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	令和6年1月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0177100286-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓からは川や木々が見え、自然を感じられる環境の中で、今年度は「安全をその人らしい生活の両立」を年間目標にかかげ、職員一同ケアを行っている。毎月のケア会議にはその月のように目標に対して取り組んだかなど評価を行い、次の月はどうに支援を行っていくか話し合っている。

コロナ禍で中々面会や外出など行えない中で、毎月行事等を行う中で、季節を感じていただけるように昼食のメニューを変えたり、レクリエーションなど取り入れながら身体を動かす機会などもつくっている。

感染症など発生時にも速やかに対応できるようにフローチャートやマニュアルの作成、研修等を行うことで、最小限に抑えられるように取り組み、また防護服等の感染症発生時の対策グッズを常備している。

また災害時の避難訓練等も行い、地域や他の施設等とも覚書等交わすことでもしもの時に対応できるように取り組み、備蓄品なども準備している。

特定技能実習生も働いている中で、職員が模範となり働くのはもちろん、年に2回の面談でも職員が意見を言いやすく、目標等を持って働け、仕事にやりがいを持てるような環境がつけられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に勤務者全員で復唱しています。年間目標を理念に基づき設定し毎月評価を行うように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常敵に交流している	利用者様が散髪をする際は市内の美容室の方に来ていただき散髪や交流している。また利用者様が個人的にお付き合いがある美容室等がある場合には施設に来ていただき散髪をしていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の受け入れ等は常に行えるように取り組んでおり、事前連絡を頂ければ、感染対策をしっかりと行い見学対応をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類以降は2カ月に一回運営推進会議を開催し、活動報告の結果をまとめ報告している。また、参加者の皆さんと意見交換や話し合いをする機会も設けられており、ご家族様からもアンケートといった形で意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日常から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での報告や市役所とは都度連絡を取りながら、事業所での取り組みの理解や協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に虐待予防や身体拘束を目的とした委員会を設けており、日常生活で起こりうる虐待やグレーゾーン、インシデントを常に報告や連絡、相談を行い身体拘束をしないケアを徹底する事に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても、虐待防止委員会も設けており研修も行っている。また、研修を通して、事業所内でも虐待につながり兼ねない行為や危険性に察知するよう常に心がけ注意をはらうよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修でも学ぶ場を設けたり、都度必要な事などは話し合いを行いながら活用出来るよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や運営規定などの説明を行っている。また、都度不安な事や疑問に思った事はしっかりと聞き取りを行い対応し、理解や納得が得られるよう働きかけ、随時疑問等あれば、相談していただけるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見なども日常生活の中で都度聞き取りを行い反映している。また、ご家族様にもアンケートを送り、意見や要望を聞くようにし、運営推進会議の際には委員の人にも知らせている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年2回の個人面談で運営に関する提案や意見を述べる機会があり、改善が出来る事は迅速に対応し反映している。また、日常生活内でも常に意見が言いやすい環境作りにも努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回ある個人面談で、職員がやりがいとなる事を目標設定にしたり、各職員の状況に合わせ向上心が持てる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談や日常生活の中で各職員の力量を把握するようにしている。また、社内・社外研修等も受けられる様に案内を出し参加出来るよう整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は同業者と交流する機会は減っているが、研修等を通じて、交流する機会を作る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時に挨拶、勤務開始時には一人一人に挨拶など行い信頼関係を築く様子しっかりと行っている。また、お話しや困っている事なども伺い本人が不安にならないよう注意しながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で本人やご家族様から不安や困っている事を聞き取りをしっかりと行っている。また入居後も安心していただけるように関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望に対し、本人やご家族様が現在困っている事などを確認し、本人にどのようなサービスが必要か等を検討し利用可能かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と一緒に作業など行う場面を設ける事で活躍できる場を作ったり、頼りにされていると感じていただけるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も本人とご家族様が良好な関係を維持出来る様に状況に応じて職員が間に入り必要に応じて支援が行えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人にとって馴染みのある人達など関係が途切れない様に電話やご家族様に伺ったりしている。また馴染みのある場所に行く機会を設けたり行けない場合は写真など見ながら思い出す機会を作っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者とのコミュニケーションが難しい入居者様にも職員が間に入り会話し他の入居者様とのコミュニケーションが取れる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、サービス利用が終了した後もしっかりとフォローが出来る様に都度、相談支援等もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人とコミュニケーションを取り、今日のしたい事や思いを聞き希望に沿い支援をしている。また、ご家族様からも意向を伺い、本人が毎日過ごしやすく生活がおくれる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用に至るまでの経緯などは記録や書面で残し職員全員が閲覧でき把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の残存機能を把握し、その日の体調に合わせて1日の過ごし方などを確認し職員で把握出来る様に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人やご家族様と話し合いを行い作成している。また、職員などの意見や要望等も聞き内容を確認し計画作成担当者が反映出来る様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録やモニタリングにもその日の結果なども記入し、介護計画作成時に見直し出来る様に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に変化する本人や家族の状況など把握し、職員間でも都度ミーティングを行い意見も取り入れながら、介護計画等も見直しし、本人の体調や状況に合わせて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し入所後も活用出来るよう、地域との連携も行い心身ともに力を発揮しながら、安全に楽しむ事が出来るようにしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後は基本的に提携先の医療機関での受診や往診を行っています。本人や家族から希望要望などがあれば他の医療機関で受診し本人が適切な医療を受けられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で状態や体調変化がある時は都度、管理者等に報告・情報共有し、往診時に担当医師や看護師に相談している。また必要であれば受診を行い適切な医療を受けられる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には情報提供書を作成し情報共有している。入院中もお電話などで情報交換や相談等もやっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向け本人やご家族様には早い段階から相談などを行っている。また双方の願いなども尊重し事業者で出来る事を十分に説明し、医療機関や地域の関係者とも連携をとり支援出来る様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え救命講習を受講している。緊急時には連絡網やスタットコールなどの準備も出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害時の訓練を行い、素早く対応出来る様に備えている。また、他の施設や地域とも連携し緊急時は避難が出来る様に協力体制を築いている。美唄館との連携も取れる様にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の支援の中で個人のプライバシーや、その人の人格に配慮した、お声掛け行い相手に不快な思いをさせない様に努めている。社内研修など行いながら接遇の教育も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活をしていく上で本人の希望や意向に沿いながら支援している。また自己決定が難しく思いを汲み取れない方などは選択肢を二択などに伝えやすく1人1人が自己決定出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床後やその日の中で、本人の希望やしたい事など伺い少しでもご自宅で過ごしていた時と同じ環境をおくれる様、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洗面や歯磨き髪の毛を整え、男性入居者様は髭剃りを行い身だしなみを整えている。イベント事や外出時などは女性職員がお化粧の支援を行ったりもしている。衣服は季節に合わせて調整をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や時期に合った献立を作成している。また献立内には入居者様から嗜好調査を行い食べたい物を献立内に反映し食べる時にはご本人へ説明なども行っている。調理参加が出来る入居者様は職員と一緒に食事準備もしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様の嚥下状態に合わせた食事形態で提供しています。咀嚼や嚥下状態が悪い方にはペースト食や水分にはトロミ剤を活用し提供していません。食事や水分摂取量も1人1人記録に分かる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の口腔内状態に合わせた道具を使用し、その中でご自分で行える方や介助が必要な方など状態に合わせた介助方法で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄へ行ける方は見守りや排泄後の確認を行い、自力で排泄へ行けない方は排泄表などを活用し排泄パターンの中で定期的に確認しトイレへ行ける時はトイレへ誘導し排泄を行える様に支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で乳製品や食物繊維が含まれている物を取りれている。また館内で出来る運動なども取り入れ出来るだけ自然排便出来る様に務めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日には各入居者様に入浴の意向を確認している。午前入浴が多いのですが意向によっては別の日や時間も調整し、入浴中は入浴剤や本人の好きな音楽などがかけて支援もしている。出来る限り同性介助を心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に沿い、日中でも居室で休息出来る様にしている。また居室にテレビがある方もおり自室で鑑賞出来る様にもしており、就寝時は本人と相談し意向など確認しながら就寝支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者ごとに服薬リストをファイリングしており職員がいつでも閲覧出来る様に各介護室に置いている。往診時に服薬変更等があった時は記録や申し送り時に情報共有もしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設敷地内での畑作業や食事準備の際に行う調理参加など職員と利用者と一緒に1人1人の力を活かした役割支援を継続している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候に合わせ各利用者には外気浴やお散歩などの希望を伺い、外出支援を行っている。またご家族様や利用者から外出希望がある場合は可能な限り希望に沿うように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が自由に使えるお小遣いなどをご家族様に準備していただき、移動販売等が来た時には本人が買い物出来る様に支援している。また買物が出来ない際には代行での買い物を行う支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある際はご家族様へ連絡が出来る様に行っている。また自分で携帯電話を持っている方はその都度、本人へ確認している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は音や電気の明かり、職員の声量に注意し入居者に合わせ調整している。季節事に室内温度にも注意し暑すぎたり寒すぎないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では個人で過ごせる場所または複数の人が過ごせる環境作りを行っており、気の合う入居者同士と一緒に過ごせる様に配慮もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、入居前に自宅使用していた物などはご家族様や本人と相談し居室へ運び居心地よく過ごせる様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	炊事、洗濯、掃除など本人が出来る事はその日の体調や状況に合わせて、職員が見守りや付き添いを行い支援している。また場所が分かる様に表札や写真などを添えて配慮している。通行の妨げにならないように配線コードや家具の配置などにも気を付けている。		